



『就労環境改善に取り組んで』

養豚経営：津南町大字上郷宮野原 島田 玲子氏

こんにちわ、津南町で養豚一貫経営と水稲、畑作の複合経営に取り組んでおります。

さて私と農業の関わりからお話します。私の実家は農家でしたが、農業はたまに手伝う程度で私自身あまり農業は好きではありませんでした。趣味でダンススクールで主人と出会い結婚しましたが、すぐに農業に従事することは大きな抵抗感がありました。

休日や給料に対しての不安もあり、しばらくは会社勤めをした後に、両親が年を取ったためやむなく農業に従事することになったのです。最初は主人に言われるままに手伝うだけでしたので不平や不満の毎日でした。

その後、経験を重ねるにつれ、今は農業こそ自分の天職だと感じております。それは、日々マニュアル化された労働でなく、生きている物を創り出す楽しさと主体性を持つての労働配分や余暇を作ったり、経営の取組みによっては努力に応じた所得も得られることが判ってきたからです。経営に参画することで我が家の財布の中も見えてきて、農業に対しての興味も湧いてきました。また、主人と仕事を一緒にすることで共通の話題も多くなり、主人の農業へ懸ける意欲や情熱も感じられ、自分も知らず知らず少しずつ変化してきたような気がします。ここで、自分達養豚仲間で行っている「養豚ヘルパー制度」について触れて見たいと思います。我が家の労働力は主人と二人なので、冠婚葬祭や家族が病気で付き添いに付いたりすると、日常の作業に支障を来すことがしばしばでした。ゆとりある農業経営を目指して平成5年に養豚仲間8人で農事組合法人津南ファームサービスを設立しました。通年雇用をするほどの規模でもなく、忙しい時期に手を借りたい

と言うことなのでヘルパー制度があることはとても助かります。仲間と温泉に出かけたり、家族旅行が楽しめるようになり「心と体」にゆとりを持つことが出来るようになりました。そして私達畜産農家の婦人が集まり、三畜種婦人部(酪農、肉用牛、養豚)を作り横のつながりを大切にしています。会の内容は、料理講習会の後のガーデニングの勉強等、盛り沢山の一日ですが、井戸端会議的情報交換を含めて楽しい一時を過ごし明日への活力を充電しています。また、昨年より家族の協力のもと中央畜産会主催の就労環境改善の委員もやっています。会議の内容は、ハード面とソフト面に別けられ検討しています。その中で、ハード面では女性委員の皆さんからの共通しての要望は、糞尿管理、給餌管理が大変だと言うことでした。女性、高齢者に配慮した施設・機械器具の改良、改善点が述べられ検討をしています。ソフト面では家事、育児への家族の協力と理解がほしい。休日や労働報酬がほしい。研修会・交流会への参加する時間がほしい等が主な要望でした。研修先の交流会の話題の中に「私達の地域では、女性は会議への参加はほとんどしていない」などの話もありました。意欲を持って仕事や経営に参加していただくためにも家族協定の締結、ヘルパー制度の導入・利用、男性の家事、育児、介護の分担等への理解が必要ではないかとの意見も出されました。私に課せられた委員の任期も後わずかですが、女性の現場での声を発言して行きたいと思っています。より良い就労環境で仕事に従事できるように改善策を取り入れてもう少し頑張ってみようと思います。養豚経営に携わり二十年、豚肉価格の低迷で苦しい時もありましたが将来の夢を夫と語り合い頑張ってきました。経営診断を受けての経営改善など勉強の繰り返しですが、地域の養豚仲間と力を合わせ魅力ある養豚経営を目指していけたならと思っています。これからも、一歩を踏み出す勇気を持って勉強を重ね、夫と対等なパートナーとして経営に参画してゆきたいです。最後になりましたが、我が家に朗報があります。現在県外の大学に行っている息子が後継者として来春経営に参画することが決まりました。これからは親子で「我が家の農業経営」について語り合いたいと今から楽しみにしております。